

会員番号

氏名

生年月日

2023 年度
第 166 回日商簿記検定目標
公開模擬試験

問題用紙

3 級

(制限時間 60 分)

(本試験の際には、次のような注意事項がございます。本答練の答案作成・提出に際しては、2.～4.にご留意ください。)

受験者への注意事項

1. 本冊子は持ち帰りできませんので全ページを必ず提出してください。持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
2. 答えは、問題文の指示に従い定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに書いてください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンシルを使用してください。仕訳問題の答案の記入方法は、裏表示を確認してください。
4. 問題および答案用紙の余白は計算用紙として使用できます（解答欄にかぶらないようにしてください）。

資格★合格クリアール

第1問 (45点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、設問ごとに最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。なお、消費税は指示された問題のみ考慮すること。

1. X9年5月27日、注文していた商品が到着し、次の納品書兼請求書を受け取った。

納品書兼請求書			
(株)兵庫精肉店 御中		株式会社神戸食品	
品物	数量	単価	金額
和牛サーロイン (北海道産黒毛和牛)	6 kg	3,000	¥18,000
鶏ガラ (秋田県産比内地鶏)	30 kg	500	¥15,000
豚バラ肉ブロック (三重県産松坂豚)	9 kg	2,400	¥21,600
送料	—	—	¥1,200
合計			¥55,800

X9年6月30日までに合計額を下記口座へお振込み下さい。
 湊山銀行平野支店 普通 1234432 カ) コウベシヨクヒン

- ア. 繰越商品 イ. 売掛金 ウ. 立替金 エ. 買掛金 オ. 仕入 カ. 発送費
2. 過日に札幌鉄鋼株式会社より商品¥270,000を仕入れ、代金は掛けとしていたが、先方から当該掛代金について電子債権記録機関への発生記録請求が行われ、当社はこれを承諾した。
- ア. 電子記録債権 イ. 買掛金 ウ. 電子記録債務 エ. 売上 オ. 仕入 カ. 発送費
3. かねて仕入先の(株)沖縄乳業に対する買掛金¥150,000を電子債権記録機関に債務として発生記録していたが、本日、その支払期日が到来したため当座預金口座から決済が行われた。
- ア. 普通預金 イ. 当座預金 ウ. 電子記録債権 エ. 買掛金 オ. 電子記録債務 カ. 仕入
4. 本日、従業員に給料(差引支給額¥3,900,000)を普通預金口座から支給した。なお、当該金額は源泉所得税¥300,000と社会保険料の従業員負担分¥350,000を差し引き、従業員が立替払いしていた費用(未払金を計上済み)の補てん額¥69,000を加えた後の金額となっている。
- ア. 当座預金 イ. 普通預金 ウ. 法定福利費 エ. 従業員預り金 オ. 未払金 カ. 給料
5. かねて商品を売り上げた際に受領していた共通商品券¥480,000につき発行元の長田区商店街連合会に精算の請求を行い、同額が普通預金口座に入金された。
- ア. 現金 イ. 普通預金 ウ. 売掛金 エ. 受取商品券 オ. 前受金 カ. 売上
6. 本日における店舗での売上高は¥1,200,000(現金決済¥750,000、クレジット決済¥450,000)であった。当社では、信販会社に対する手数料(販売代金の4.5%)につき、商品販売時に認識する方法を採用している。
- ア. 現金 イ. 普通預金 ウ. 電子記録債権 エ. クレジット売掛金 オ. 売上 カ. 支払手数料
7. 品川銀行から¥30,000,000の借入れを行うに際して同額の約束手形を振り出し、利息を差し引いた後の金額が当社の当座預金口座に振り込まれた。借入期間は147日、利率は年2.7375%であり、利息は1年を365日として日割りで計算する。
- ア. 当座預金 イ. 支払手形 ウ. 借入金 エ. 手形借入金 オ. 受取利息 カ. 支払利息

採点欄	
第1問	

3 級 ①

商業簿記

第1問 (45点)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				

(次ページに続く)

8. 鳥取物産株式会社は、商品（店頭販売価額¥390,000）を砂漠が丘商店に販売し、運送料¥4,500を加えた合計額を掛けとした。なお、運送料¥4,500につき、当社から運送業者へは後日支払うこととした（未払金を計上すること）。

ア. 現金 イ. 売掛金 ウ. 預り金 エ. 未払金 オ. 売上 カ. 発送費

9. X7年7月21日に、不用となった営業用自動車（X4年4月1日に¥3,600,000で取得、残存価額ゼロ、耐用年数6年、定額法により償却、間接法により記帳）を¥780,000で中古車販売店に売却し、代金は今月末に当社の普通預金口座に振り込まれることとなった。なお、当社の会計期間は毎年3月31日を決算日とする1年間であり、減価償却費は月割りで計算すること。また、当期中の減価償却額を減価償却累計額の増額として処理しない方法によること。

ア. 普通預金 イ. 未収入金 ウ. 車両運搬具 エ. 車両運搬具減価償却累計額 オ. 減価償却費
カ. 固定資産売却損

10. 従業員の出張に際し、旅費の概算額¥45,000を現金で支給した。

ア. 現金 イ. 当座預金 ウ. 未収入金 エ. 仮払金 オ. 旅費交通費 カ. 雑費

11. 出張から戻った従業員より次の領収書および報告書が提出されるとともに、かねて概算払いしていた¥45,000との差額を現金で受け取った。なお、1回¥3,000以下の電車賃は従業員からの領収書の提出を不要としている。

領収書 ¥25,800 上記金額確かに領収致しました。 (株) 新日本リニア鉄道
領収書 宿泊費 シングル1名 ¥9,000 またのご利用をお待ちしております。 ホテルオーヤマ神戸

旅費交通費等報告書			
三田次郎			
移動先等	手段等	領収書	金額
新三宮駅(往復)	電車	有	25,800
和田岬駅	電車	無	1,200
ホテルオーヤマ神戸	宿泊	有	9,000
新三ノ宮駅	電車	無	1,200
		合計	¥37,200

ア. 現金 イ. 未収入金 ウ. 仮払金 エ. 仮受金 オ. 旅費交通費 カ. 雑損

12. X6年11月8日、株主総会にて、株主に対し1株当たり¥1,800の中間配当を行うこと、および利益準備金¥540,000の積立てが決議された。なお、当社の発行済株式総数は3,000株である。

ア. 現金 イ. 普通預金 ウ. 未払配当金 エ. 資本金 オ. 利益準備金 カ. 繰越利益剰余金

13. 今週始めに業務用の交通系ICカードに¥12,000を入金していたが、本日（週末）に従業員より次の用途で使用した旨の報告を受けた。なお、当社ではICカードへの入金額を仮払金として計上し、毎週末に使用額を適切な費用の勘定に振り替えている。

電車代¥3,000 バス代¥2,000 郵便料金¥1,200 文房具代¥900

ア. 仮払金 イ. 旅費交通費 ウ. 租税公課 エ. 通信費 オ. 消耗品費 カ. 雑費

14. 当期中に得意先が倒産し、その際に売掛金¥1,200,000の全額につき貸倒引当金を充当する形で回収不能分とする処理を行っていたが、本日、得意先の清算に伴う¥60,000の分配を受け、同額が普通預金口座へ振り込まれた。

ア. 普通預金 イ. 売掛金 ウ. 貸倒引当金 エ. 貸倒損失 オ. 貸倒引当金戻入
カ. 償却債権取立益

採点欄	
第1問	

3 級 ②

商業簿記

(前ページより)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				

(次ページに続く)

3 級 ③

商業簿記

採点欄	
第1問	

(前ページより)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
15				

第2問 (20点)

(1) 次の各取引の伝票記入(三伝票制を採用している)について、①～⑩に当てはまる適切な勘定科目または金額を答えなさい。使用しない伝票の解答欄には「記入なし」と答えること。商品売買取引の会計処理は三分法によること。

1. 小岩商店に商品¥330,000を売り上げ、代金のうち¥60,000は現金で受け取り、残額は掛けとした。

入金伝票	
科目	金額
(①)	(②)

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
(③)	270,000	(④)	270,000

2. かねて小岩商店に販売していた商品のうち¥45,000につき、品違いとなっていたため返品を受け入れ、掛け代金から減額することとした。

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
(⑤)	(⑥)	()	()

3. 船橋物産より商品¥189,000を仕入れ、代金のうち¥39,000は現金で支払い、残額は掛けとした。

出金伝票	
科目	金額
(⑦)	(⑧)

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
(⑨)	189,000	(⑩)	189,000

(2) 答案用紙に示した11月中の買掛金に関する取引の勘定記録を完成させなさい。なお、商品売買の会計処理は三分法によっている。また、当社の仕入先は宗谷商店および稚内商店のみであり、総勘定元帳および補助元帳における各勘定は毎月末に締め切っている。

採点欄	
第2問	

3 級 ④

商業簿記

第2問 (20点)

(1)

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

(2)

総勘定元帳 (一部)

買掛金

11/9 () ()	11/1 前月繰越 ()
11/15 () 12,000	11/6 仕入 156,000
11/18 普通預金 48,000	11/12 () ()
11/24 () ()	11/21 () ()
11/30 () 471,000	11/27 () 87,000
()	()

仕入先元帳

宗谷商店

11/9 普通預金払い 36,000	11/1 () 81,000
11/15 仕入返品 ()	11/12 仕入れ 96,000
11/30 () ()	11/27 仕入れ ()
()	()

稚内商店

11/18 普通預金払い ()	11/1 () 48,000
11/24 約束手形振出 120,000	11/6 仕入れ ()
11/30 次月繰越 255,000	11/21 仕入れ ()
()	()

第3問 (35点)

次の【資料Ⅰ】および【資料Ⅱ】にもとづいて、下記の各問に答えなさい。なお、当会計期間はX7年4月1日からX8年3月31日までの1年間である。また、当社は各取引銀行との間で限度額を¥300,000とする当座借越契約を締結している。

【資料Ⅰ】 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表		X8年3月31日		(単位:円)
現金	56,000	当座預金 墨田銀行	33,000	
当座預金 荒川銀行	180,000	支払手形	72,000	
定期預金 墨田銀行	500,000	買掛金	111,000	
受取手形	90,000	仮受消費税	300,000	
売掛金	150,000	貸倒引当金	3,000	
電子記録債権	105,000	備品減価償却累計額	45,000	
繰越商品	340,000	車両運搬具減価償却累計額	595,000	
仮払法人税等	165,000	資本金	300,000	
仮払消費税	178,000	利益準備金	75,000	
備品	270,000	繰越利益剰余金	282,500	
車両運搬具	680,000	売上	2,880,000	
仕入	1,530,000	受取手数料	150,000	
支払家賃	315,000	受取利息	7,500	
水道光熱費	144,000			
通信費	106,000			
租税公課	45,000			
	4,854,000		4,854,000	

【資料Ⅱ】 決算整理事項等

1. 売価¥90,000(税抜価額)の商品を販売し、消費税(10%)を含め掛けとしていたが未処理となっている。
2. 現金実査を行ったところ、金庫に保管されていた現金の実際有高は¥51,000であった。帳簿残高との不一致原因を調査した結果、期末日に行った収入印紙¥3,000の現金購入が未処理となっていたことが判明したが、残額は不明のため、雑損または雑益として処理する。
3. 期末に当座借越がある場合は借入金に振り替える。
4. 売上債権の期末残高に対して1.5%の貸倒れを見積もり、差額補充法により貸倒引当金を設定する。
5. 期末商品の棚卸高は¥284,000(上記1.に係る商品原価¥60,000は含まれていない)である。
6. 切手¥2,000分と収入印紙¥4,000分(上記2.の購入分を含む)が未使用となっている。
7. 備品の耐用年数は6年、車両運搬具の耐用年数は8年である。いずれも残価価額をゼロとして、定額法により減価償却を行う。ただし、当期中に耐用期間が終了する場合、備忘価額として帳簿価額¥1となるように減価償却を行う。
8. 定期預金(翌期中に満期を迎える)に係る利息の未収分¥1,500がある。
9. 支払家賃は店舗兼事務所に係るものであり、毎年同額を1月始めに向こう1年分を支払っている。
10. 受取手数料のうち¥45,000はX8年3月からの3ヶ月分である。なお、前受分に係る消費税額の修正は不要である。
11. 消費税について必要な決算整理を行う。なお、消費税は税抜方式による会計処理を行っている。
12. 当期分の法人税、住民税及び事業税が¥275,000と計算された。中間納付額は仮払法人税等として計上している。

問1 答案用紙の貸借対照表および損益計算書を完成しなさい。

問2 決算整理後における繰越利益剰余金勘定の残高を答えなさい。

採点欄	
第3問	

3 級 ⑤

商業簿記

第3問 (35点)

問1

貸借対照表

X8年3月31日

(単位:円)

現金及び預金	()	支払手形	()
受取手形	()	買掛金	()
貸倒引当金	()	()	()
売掛金	()	前受収益	()
貸倒引当金	()	未払消費税	()
電子記録債権	()	未払法人税等	()
貸倒引当金	()	資本金	()
商品	()	利益準備金	()
貯蔵品	()	繰越利益剰余金	()
未収収益	()		
前払費用	()		
備品	()		
減価償却累計額	()		
車両運搬具	()		
減価償却累計額	()		
	()		()

損益計算書

自X7年4月1日 至X8年3月31日

(単位:円)

売上原価	()	売上高	()
支払家賃	()	受取手数料	()
水道光熱費	()	受取利息	()
通信費	()		
租税公課	()		
貸倒引当金繰入	()		
減価償却費	()		
()	()		
法人税、住民税及び事業税	()		
当期純利益	()		
	()		()

問2

円

仕訳問題の解答にあたっての注意事項

以下の正答例を参考に、仕訳問題における各設問の解答にあたっては、各勘定科目の使用は、借方・貸方の中でそれぞれ1回ずつとしてください（各設問につき、同じ勘定科目を借方・貸方の中で2回以上使用してしまうと、不正解となります）。

ア. 現金 イ. 買掛金 ウ. 仕入

[正答例：勘定科目を借方・貸方の中で1回だけ使用している]

借方科目	金額	貸方科目	金額
ウ	100	ア	20
		イ	80

[誤答例：勘定科目を借方の中で2回使用してしまっている]

借方科目	金額	貸方科目	金額
ウ	20	ア	20
ウ	80	イ	80